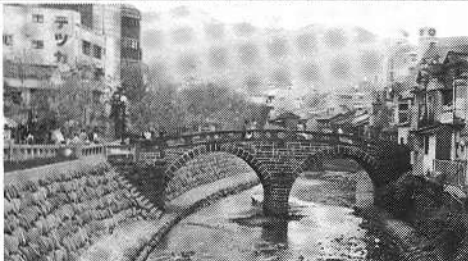
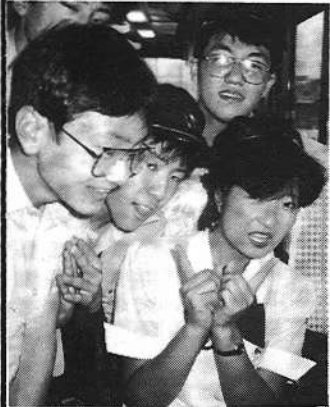


研 修

旅 行



研修旅行特別号

発行
洛星新聞局
(463) 3281 (代)
印刷/菊片桐軽印刷

局員募集

M3A 大 森
M2B 高 橋
ま で

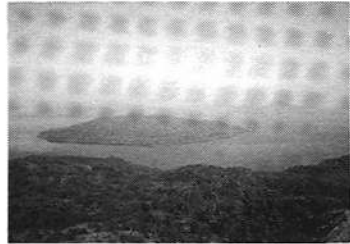
本年も例年通り中学は九州、高校は北海道で研修旅行が行われそれぞれ多くの貴重な思い出を得て無事終了した。中学は大森局員、高校はH.I.D.の竹内徹君にその報告をお願いした。

高校研修旅行

考えてみると大胆な旅行だったと思う。船に1日ゆられて北海道に上陸した後なんと延々千三百三十三キロのバスの旅が待ち受けていたのだから。約千キロといえ、およそ東京博多間を新幹線が走る距離に等しい。それもそのはず、北海道で僕たちがどこを巡ったことか。メインは阿寒・網走・札幌で、それはいが、この3つの位置関係の狭いこと。網走と札幌など、はっきり言って北海道の両端である。おかげで5日目は東から西へ大移動のため一日の計画のうち十時間がバスの中。こんな移動が続くのだから、大胆と呼ぶに相応しい計画ではなからうか。そして、その無謀な計画は、良悪両面に渡って、自ずと僕たちの旅行生活に影響を与えてくれたのである。まず一つ挙げるとするならば、旅が長くなればそれだけ気になる天候のことである。幸運なことに、日ごろの行いのいい(「我々は、ラバディ校長の祈りが通じたのか、完全に恵まれた。いくらい好天に恵まれた。おかげで、見るべき所は余すものなくしっかりと見ることができた。それだけに僕たちに強烈な印象を与えてくれた。そんな旅の日々を振り返ってみた。

さて、長い旅行となるとどうしても大切になってくるのがバスガイド。やはりその質は、良くも悪くも旅行全体の雰囲気を左右する。中には、「年の功だけを見ればガイドを続けていると思われよう。ベテラン」ガイドさんもあり、「こりやバスの中では寝るしかない」な失礼な事をいう生徒もいた。そんなガイドさんと1日過ごし、初めて陸で泊まったのが「然別」。夜になると妙にはしゃぐ夜行性の人間が班に一人は必ずいるもの。懐中電灯のものでのトランプ、……等々、やはり夜があつてこそ研修旅行である。また、遅くまで起きているとなかなか面白いもの。寝言はおろか、歯ぎしりまで聞いたりすることがある。

明けて3日目。いよいよメインの一つ、阿寒・摩周湖・屈斜路の湖群である。



中でも、霧が晴れることはめったにないという摩周湖が期待の的。「初めて摩周湖に来たとき霧がなければ

『婚期』を逃す』でなジンをガイドさんが言っていた。気にもせず聞き流しておいたのだが、なんと(案の定?)、霧はなかった。不思議なくらいはっきりと湖はあった。「神秘的」という言葉がいかにか似合うかほんとに、よく分かった。(でも、気になるなあ……)

この日は、そのあと硫黄山の異臭に悩まされ続けた。



翌日は、網走でABC別行動である。A班はウトロで遊覧船に乗った。やはりこもも天気、水平線がかすんで空と海の区別がつかないままなどは、何ともいえない光景だった。また、知床峠からは、国後島がしっかりと見えた。

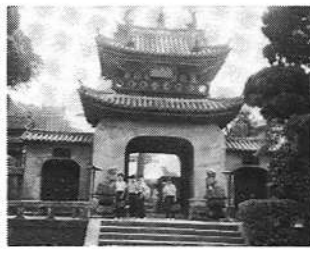


その翌々日、これあつてこそ研修旅行、いよいよ札幌での別行動である。やはり札幌と言えはラーメンだ、と言わねえガイドブック片手にあちこち回ったわけだが、困ったのは「うまい」店が狭いということ。特に「富〇」とかいう店にはカウンター席が十あふくらい、やたらと待たされた。それにその親爺の、「食わせてやっただから礼儀を言え」ともいうような態度には閉口。おまけに、熱いのにせかされて食べたもので、味わう

ひまもなかった。もつと参ったのは、その店で時間をとり過ぎて、夕飯がラーメンだけになってしまったこと。あの店に意地を並んだのが間違だった。



中学研修旅行



向かった。雨が強い。明日は帰れるだろうか……。

第四日

雨が強い。今日は、九州最終日である。9時半、竹田城跡に、ここでは希望者のみ城跡を見学。残りはバスで休けい。

もう一つの研修旅行の楽しみと言えば、みやげ選び。しかし、どこにいても「ここが一番安いのよ」などと迫る商売たくましいオバサンが多い。「うそだ」とも言えないだけにいついっい口車に乗ってしまいがちだが、どう考えても本当のはずがない。やはり、「五〇〇円のバター飴を千円と偽って後輩に……」などと考えながらまとめ買いするのが楽しいのである。

第一日

その日、京都駅八条口に洛星中学35期生188人が集まった。7時半集合である。これから5日間の共同生活に顔をしかめる先生方に比べ、生徒は元気がだだ、この中に谷田君の姿がないのが淋しい。しかし、彼の写真は、彼の所属していたB2班のメンバーと共に、これから九州へ旅立つのだ。

8時半、いよいよ新幹線に乗りこむ。これから長崎へ、長いようで短い列車の旅だ。早速盛り上がりつつあるグループがあちこちに。14時半、長崎着。暑い。あたふたと駅前に待機していたバスで、二十六聖人記念碑へ向かう。それから平和公園へ、いろいろあわただしいような気がする。しかし、後から考えてみるとこう晴れて天気のいいうちに、いろいろ回れてよかったのだ。明日からは……。

第三日

6時半起床、朝食後に地獄めぐり。しかし、地獄の裏側に、旅館のバブが乱立していたのは興ざめ。バスで島原城へ、島原からフェリーで三角へ。雨も少し小やみになったようだが、フェリーの中で、スポーツ新聞にふけていた者も、「中日」巨人、今日の見どころ……。



三角からバスは阿蘇へ疾走。バスの中では先生、生徒のカラオケ大会。盛り上がりつつあるうちに阿蘇に着いた様だ。雨が強い。先生方が、登頂が断念かを協議。どうやら登頂のようだ。ロープウェイで山頂へ。しかし風雨が強く「待避」行き。そこで男のガイドさんから説明。説明後、ガイドが写真売りに化けて、戸惑ったが、そそくさと下山。バスで黒川温泉の本観光ホテルへ

第五日

6時起床(徹夜組にはあてまらない)。

7時朝食、大阪は近い。8時20分、大阪着。バスで学校へ……ここに、長いようであれ短い研修旅行は、終わりを告げた。



